

学校教育目標	かしこく やさしく たくましく
目指す学校像	自ら考え正しく判断する児童が集う学校 やさしさと思いやりのある児童が集う学校 健康でたくましい児童が集う学校
重点目標	1 確かな学力を持つ児童の育成 2 豊かな心を持つ児童の育成 3 地域と連携した教育の推進 4 リフレッシュ工事とともに進める、美しい教育環境の整備 5 自己研鑽に努める教職員チーム

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※重点目標は6つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学びの質の向上に関する取組

心の子どもの発達やサポートに関する取組

地域づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査、市の学習状況調査では、全国、市と比べて概ね平均を上回るなど良好な結果である。 ○児童がタブレットを活用し共同編集等を行うことで、友達のを考え方を自分の考えに生かすなど協働的に学ぶ様子がみられるようになった。 (課題) ○市学習状況調査の結果から、国語については自分の考えをまとめ表現する力、算数については、答えを求めるだけではなく、考え方の過程や根拠も表現できる力などの育成が必要である。	・児童に身に着けたい力を育成するためのICTの活用 ・学習者が主体となるような指導方法の工夫改善	・学習用アプリの活用方法について研修を重ね、活用の幅を広げ、つけたい力を明確にした授業実践を行う。 ・学校課題研修として全教職員でICTに係るスキルの向上を図り、学習指導に役立てる。 ・教員同士の公開授業・協議を計画的に実施し、指導スキルを向上させる。 ・スクールダッシュボードによる授業の振り返りを積極的に行うことで指導と評価の一体化を図る。					
2	○R7 学校評価における児童の悩みや困ったときに先生や家族に相談できるかの質問に対して、肯定的な回答については、8割程度であった。 ○いじめ等の問題については、覚知後、迅速に対策委員会を開催し組織的な対応を徹底している。 (課題) ○R7 学校評価におけるいじめの対応についての保護者の肯定的な回答の割合は80%程度であったが「大変あてはまる」の回答の割合は25%程度であった。 ○発達指示的生徒指導の充実を図り、ユニバーサルデザインを踏まえた授業、学級経営を実践する。	・児童一人一人に応じた丁寧できめ細かい指導、支援体制の充実 ・発達指示的生徒指導の充実	①いじめ問題等に対しては、いじめ防止基本方針に基づき、組織的に対応する。 ②日常の児童観察、個別面談、心と生活のアンケート等で得た情報を共有し、個別の支援・指導に役立てる。 ①大戸小 so-la ルームを効果的に運営し、個別の支援を充実させる。 ②児童委員会等によるいじめ撲滅の取組等を計画的に実施し、児童の自発的・主体的活動を発達させる。					
3	(現状) ○SSN 関係団体による協力体制が整っており、登下校の見守りや学習支援、環境整備等にも保護者・地域の方に協力していただいている様子がよく分かる。 ○学校HPや連絡アプリを活用し、保護者・地域に教育活動を継続的に周知している。 ○児童による地域行事の積極的な参加における肯定的な回答は80%程度であった。 (課題) ○コミュニティ・スクールの意義や効果、必要性等について、学校(職員・児童)・家庭・地域で理解を深めていくことが重要である。	・地域や保護者と連携・協働を図った教育活動の推進 ・地域を愛する児童の育成	①校長講話・研修・地域講師の授業等を通して、教職員・児童・保護者にコミュニティ・スクールに対する理解を深める。 ②学校HPや連絡アプリを通して、本校の学習支援・防犯・図書等のSSNボランティアの取組を拡大していく。 ①カリキュラム・マネジメントを意識し、地域講師を招聘しての体験的な学習の充実を図る。 ②地域行事の案内を積極的に行い、児童に参加を促す。					
4	(現状) ○学校施設・設備の安全の確保については、教職員で毎月点検を行い、組織的に対応している。施設不備による児童の事故事案は発生していない。 ○教育環境を改善するにあたり、必要な時期に必要なものを設置するために、予算や優先度を考慮し対応する必要がある。 (課題) ○リフレッシュ工事の進捗に伴い、校地内の安全や教育活動に制限がかかることがある。 ○児童が自分の身を守る行動を習慣できるように、安全意識を高めることが重要である。	・通常教室及び特別教室等の安全管理の徹底 ・自助の意識を高める安全教育の充実	①担任及び管理職による教室等の定期的な目視・安全点検を確実に実施する。 ②理科の実験、家庭科の調理など、授業の内容に応じた安全指導・安全対策等を徹底する。 ①危機管理マニュアルを基に、計画的に避難訓練、交通安全教室、学校保健委員会等を実施する。 ②リフレッシュ工事に伴う登校環境や教育活動の配慮事項などについては、確実に教職員・児童・保護者・地域に周知し、安全な対応を徹底する。					
5	(現状) ○学力向上、人権教育、いじめ対策、特別支援教育等、教育に係る様々な課題についての研修を計画的に実施している。 ○学校課題研修を通して、効果的なタブレットの活用方法を研究し、狙いや目的を達成できるような教材研究を進めている。 (課題) ○自身のキャリア段階に応じて、資質能力の向上に係る研修会等に積極的に参加することが求められる。	・教職員の資質・能力の向上 ・持続可能な教職員の働き方改革の推進	①人事評価を活用し、教職員一人ひとりがキャリアアップできるように、学校経営方針とリンクした個人目標を設定させ、積極的に学校運営に参加させる。 ②校内研修を積極的に実施し、教員による課題別のOJTを推進する。 ①ノー残業デーや提示退勤日などを設定し、時間外在校時間を削減する。 ②市教委によるストレスチェックや相談機関を紹介するなどして、職員の健康の保持増進を図る。					